

## 乙女峠とマリア様

紫田長生

「乙女峠」をご存じでしょうか。

JR 津和野駅の裏山を、小さな溪流に沿って急な坂を 50 メートルほど登ったところです。

この 5 月に乙女峠を訪ねました。

「浦上四番崩れ」をご存じでしょうか。

明治新政府によるキリシタン迫害で、長崎の浦上地域の全村人約 3400 人を名古屋以西の 20 藩 22 カ所に流刑者として分散させ、明治政府がめざしていた国家神道への改心を迫る大迫害です。

この迫害は明治元年から始まり、キリシタン禁止の高札がおろされた明治 6 年に終焉しますが、浦

上の人々はこの迫害を「旅」と呼んでいました。「乙女峠」は津和野藩が受け

入れた 153 名の流刑地ですが、四番崩れのなかでも最も過酷な迫害が行われたことで知られています。「浦上四番崩れ」は、それまでのキリシタン迫害と大きく異なります。幕末の開国によって、長崎には様々な外国人が居留し、そこに居留民のための教会として大浦天主堂が建てられました。

そして、信仰を守っていた浦上の信者が訪れ、神父に「サンタマリアのご像はどこ？」と信仰を告白しました。その後、浦上村には 4 つ秘密教会が作られ、大浦から神父が訪れてミサが始まりました。それまで秘匿していた信仰を公言しはじめた村では、旦那寺を排除して自分たちだけで葬儀を行ったことに端を発し、長崎奉行による迫害がありました。まもなく幕府は崩壊しますが、その後の明治新政府は国家神道を基盤に据えたことから、浦上村の全員を流刑にして改宗を迫る迫害を断行しました。これが「浦上四番崩れ」です。

津和野藩は 1 万石強の小さな藩なのですが、これを萩・福山とともに、浦上信者の中心人物の流刑先の一つに定めています。津和野藩主が明治新政府の国家神道推進の中心人物であったことがその理由で、津和野藩は藩の威信にかけて厳しく対処したのでしょう。

坂道を登り切ると、やや広い平らな場所にでます。ここが乙女峠ですが、この名前は、津和野の

マリア聖堂



迫害を書いた永井隆博士の著作「乙女峠」に由来します。ここは浦上の信者を預けた光琳寺の跡地でしたが、昭和 14 年にこの土地を教会が買い取り、昭和

26 年にマリア聖堂が建てられました。

津和野で殉教した「証し人」は 37 人になります。小冊子「津和野・乙女峠の証し人」(ドン・ボスコ社)から、そのエピソードを少し紹介しましょう。この冊子は、津和野教会の山根神父様からいただきました。

6 歳の岩永もりちゃんは、飢えに苦しむもりちゃんにお菓子を見せ、「食べてもいいがそのかわりにキリストは嫌いだと言いなさい」と言い寄る役人に対して、「お菓子をもらえばパライソ(天国)へは行けない。パライソに行けば、お菓子でも何でもありません」と答えて、永遠の幸せを選んだそうです(明治 4 年 7 月帰天)。

30 歳の森安太郎は、裸のまま雪の中の三尺牢に入れられました。安太郎は聖母マリアへの信心



乙女峠への道

は津和野藩が受け



### 三尺牢の安太郎

が篤く、棄教を頑として拒み続け、みるみる衰弱していきましました。仲間が衰弱した三尺牢の安太郎を訪ね、「一人で最期を迎えるのはさぞさびしいことでは

よう」と慰めると、安太郎は「夜四つ(午後10時)から夜明けまで、青い服を着て、青い布をかぶり、さんたまりあさまの御影の顔立ちに似ておりますその人が、お話をしてくださいるので、少しもさびしくはありません。けれども、このことは私の生きての間は、だれにも話してくだらないように」と答えます。その5日後、安太郎は帰天しました(明治2年1月)。

迫害の中でいちばん過酷だったのは、乙女峠にある凍った池に浸けられることでした。そして殉教者は、うち捨てられるように仮塚に葬られるだけでした。乙女峠から少し奥まったところに仮塚があり、そこまでの山道が「十字架の道行き」として整備されています。

乙女峠にもマリア様のご出現されたことを初め

て知りました。安太郎への迫害の時に、本当に身近に寄り添ってくださったマリア様。乙女峠でのそのお姿に、私たちが知っているどのようなマリア様のご出現よりも強く感動し、マリア様は私たちの身近におられる方だと思いました。

乙女峠の聖地は、津和野教会が管理しています。津和野の風致地区にある教会は、広島教区から聖年の巡礼教会に指定されています。そして広島教区は、「乙女峠の証し人」の列聖を求めています。津和野教会の山根神父様から、列聖を求める祈りのカードもいただきました。

厳しい迫害にもかかわらず棄教しなかった人も多く、明治6年のキリシタン禁止の高札が下ろされた後に、故郷の浦上に戻りました。そしてその中の多くは聖職者になられています。「浦上四番崩れ」がすごいのは、この方々が「旅」の後、

### 殉教者の墓

明治・大正の時代をふるさとの浦上の地で生き、克明な記録や証言を残されているところでしょう。例えば、萩で残虐な雪の中で「寒ざらし」された岩永ツルさんは、生還してシスターとなり、



大正14年に78歳で帰天されました。浦上には、その後東洋一と言われる大聖堂が建立されます。

### 【S記】

### 列聖を求める祈り

全能の父である神よ、  
信頼と希望を込めて祈ります。

あなたは、長崎・浦上から津和野・乙女峠に流配された和三郎、安太郎、裕次郎、モリちゃんたち37人の信徒を聖霊によって強め厳しい迫害に耐え、いのちをかけて、あなたの愛を証しする恵みをお与えになりました。

どうか、この37人の同志たちを一日も早く教会の聖人の列に加えてください。

この同志たちの生き方にならない、私たちも唯一の希望であるあなたに自己をゆだねて生きるこ

とができますように。

アーメン。

神の母聖マリアよ、あなたのご保護を祈ります。どうか津和野・乙女峠の証し人の一日も早い列聖をお祈りください。

2022年5月3日

広島教区司教認可